Ⅵ　生活や学習に関する調査の調査結果・分析等

分析ページの構成と見方について

１　「質問別回答結果及び教科に関する調査とのクロス集計結果の分析」について

◎　質問項目は、「学習に対する関心・意欲・態度」「学習時間等」「学校生活」「基本的生活習慣」「家庭でのコミュニケーション」「社会に対する興味・関心」「自尊意識」「規範意識等」の８領域に分類し、分析と考察、提言を行った。

◎　「生活や学習に関する調査」の質問項目の回答と「教科に関する調査」の正答率との相関を見るために、クロス集計を行った。

◎　教科に関する調査とのクロス集計結果の分析と考察では、小学校は２教科、中学校は５教科の合計の平均正答率を算出し、用いている。

◎　クロス集計に関しては、必ずしも因果関係を示したものではないことに留意する。

２　「市の施策と関連のある１９項目における２年間の調査比較」について

◎　「市の施策と関連のある１９項目」について、平成２２年度からの比較を行った。

◎　各質問項目に対する、望ましい回答の割合で比較を行った。

◎　「分析と考察」では、意識の高まりや低下が顕著なものを取り上げて、分析・考察を行った。

３　その他

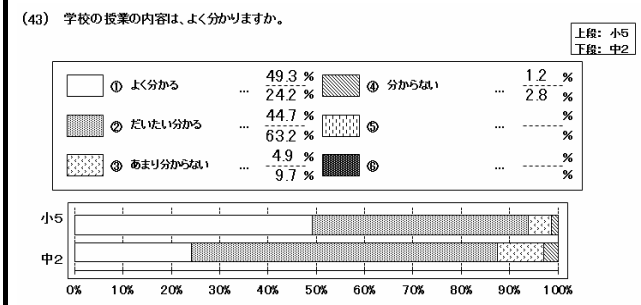
◎　分析等では、小数第２位を四捨五入した調査結果を用いている。

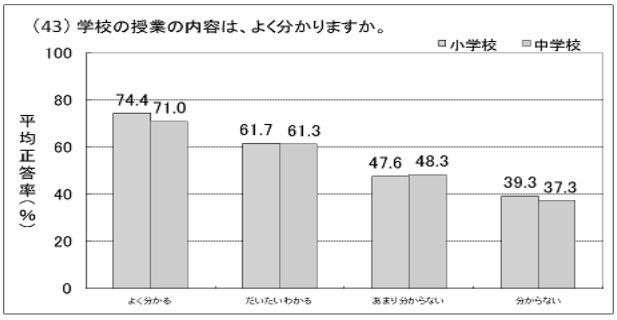
◎　調査結果は、集計の都合上、各質問における有効回答数に基づいて算出したものである。

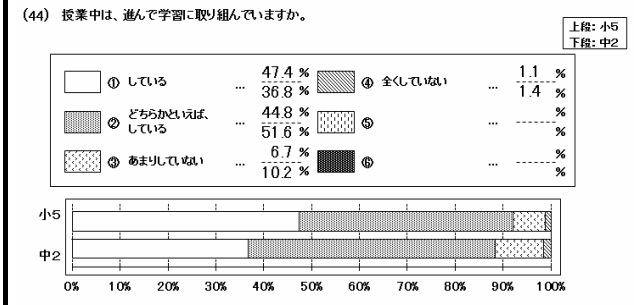
1　質問別回答結果及び教科に関する調査とのクロス集計結果の分析

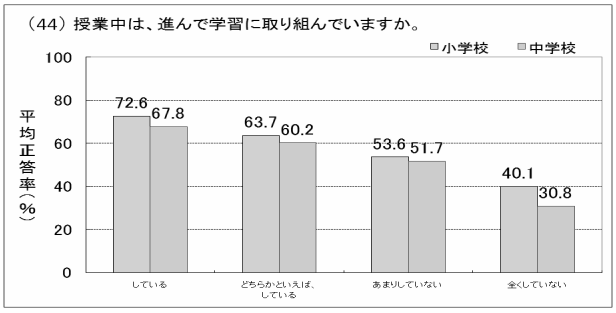
学習に対する関心・意欲・態度

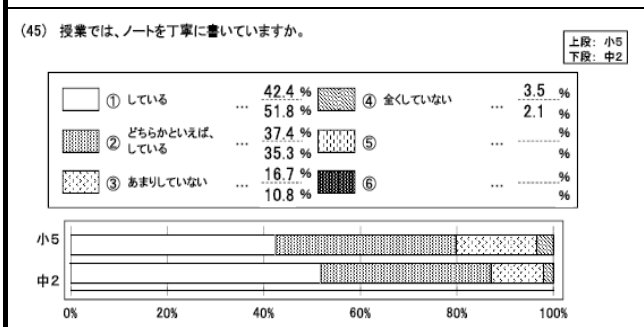
質問別回答結果	教科に関する調査とのクロス集計結果

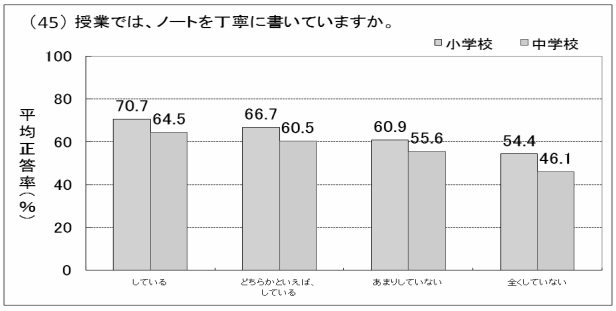


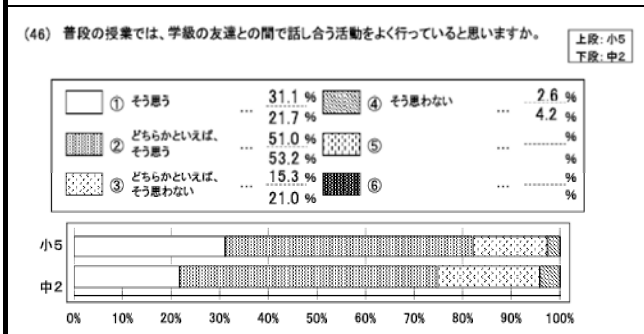


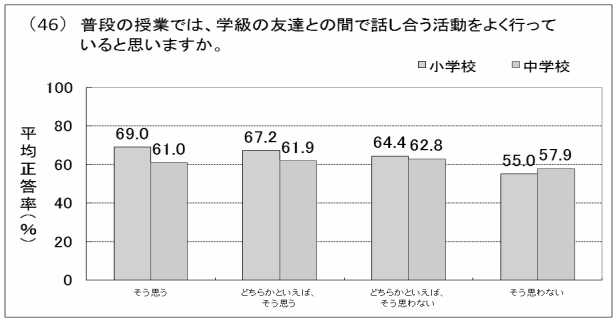


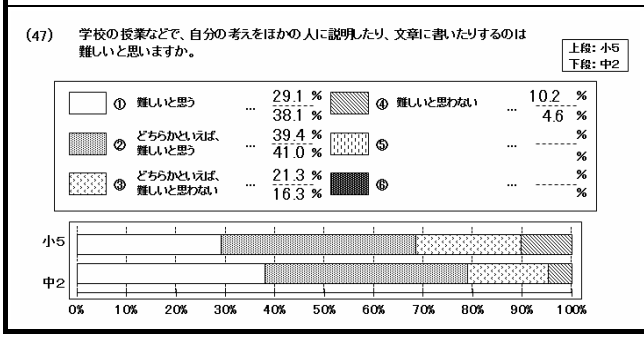


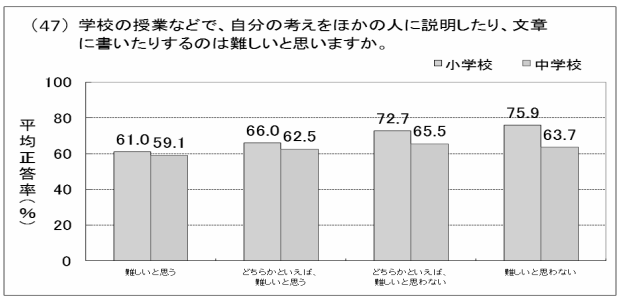




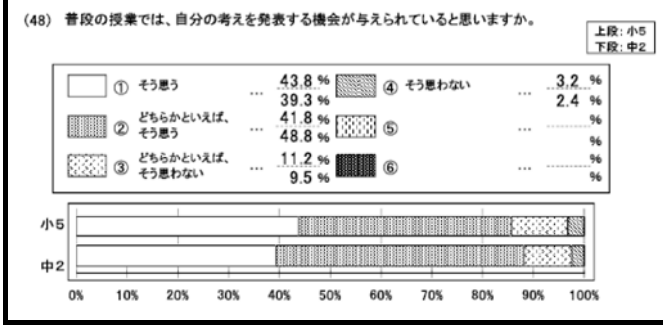
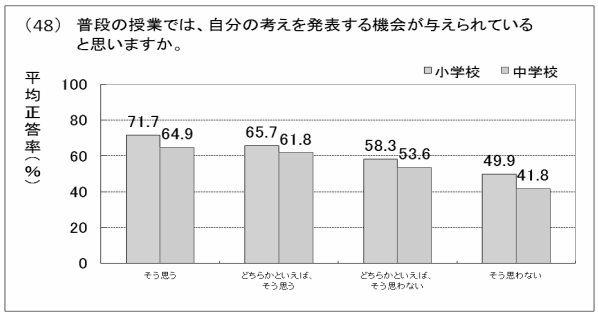








学習に対する関心・意欲・態度

質問別回答結果	教科に関する調査とのクロス集計結果
	

分析と考察

○質問（４４）では、積極的な学習の取組について、「している」と回答した児童生徒は、小５の 47.4%に対し、中２は 36.8%と 10.6 ポイントの差があり、小５に積極的な傾向が見られる。「どちらかといえばしている」を含めた肯定的回答で比較すると、小５が 92.2%、中２が 88.4%で、差が 3.8 ポイントまで縮まる。教科に関する調査とのクロス集計結果では、「している」と「全くしていない」の差が小５で 32.5 ポイント、中２では 37 ポイントであり、学習に進んで取り組んでいる児童生徒の平均正答率は、高くなる傾向が見られる。また、同じクロス集計を昨年度と比較すると、「全くしていない」と回答した中２の正答率は昨年度が 37.9%だったのに対し、今年度は 30.8%であり、学習に消極的な生徒ほど平均正答率は、低くなる傾向が見られる。

○質問（４７）では、授業などにおける説明活動や文章表現について、「難しいと思う」と回答した小５の 29.1%に対し、中２は 38.1%と、9 ポイントの差があり、中２の方が難しいと考えている傾向にある。教科に関する調査とのクロス集計結果では、小５の「難しいと思う」と「難しいと思わない」の差が 14.9 ポイントあり、「難しいと思わない」児童ほど正答率が高くなっている。中２では、回答項目間の差が小さく小５のような影響は見られない。昨年度との比較では、小・中ともに大きな変化は見られない。

提　言

◎　学習意欲は正答率に大きく影響しており、より多くの児童生徒が学習意欲を増すような授業が必要である。「学びの向上さいたまプラン」では「指導内容・方法の工夫改善」を掲げている。特に授業導入時にフラッシュカードや小テスト、実物や画像を見せる等、児童生徒が授業の始めに進んで取り組むことができるよう、工夫・改善に努めることが大切である。

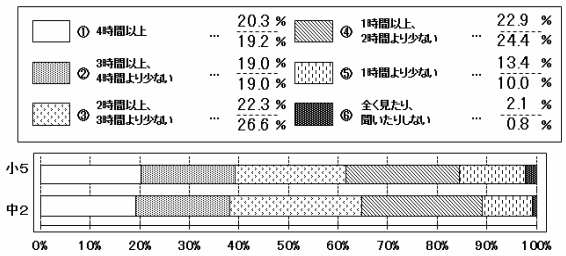
◎　「さいたま市国語力向上プログラム」では、「自分の頭で考え、その考えを自分の言葉で適切に表現できる」ことを目指している。自分の考えを説明したり、文章にしたりすることは、ものを覚える作業よりもたいへん高度な能力が必要である。そのためには国語の授業だけでなく、教育活動全体で取り組むことが大切である。まずは、授業の中で考えを発表する場面を多く与えるとともに、その考えが児童生徒の自信や意欲につながるよう、適切な評価をしていくことが大切である。

学習時間等

質問別回答結果

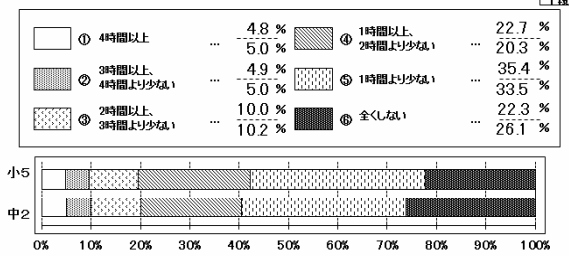
(12) 普段(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか。

上段: 小5
下段: 中2



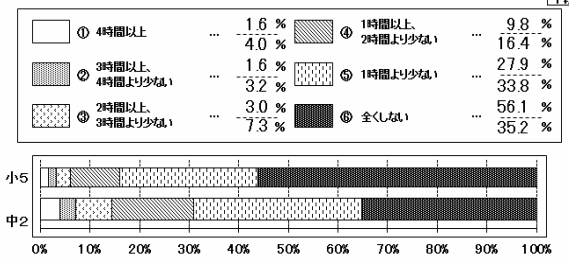
(13) 普段(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか。

上段: 小5
下段: 中2



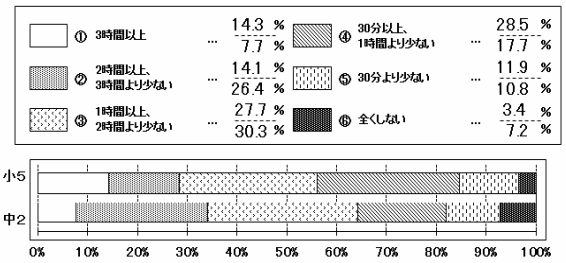
(14) 普段(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、インターネットをしますか。

上段: 小5
下段: 中2



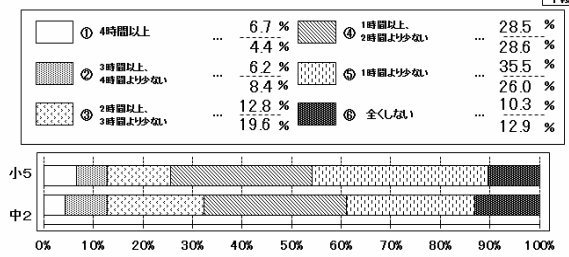
(15) 普段(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。

上段: 小5
下段: 中2



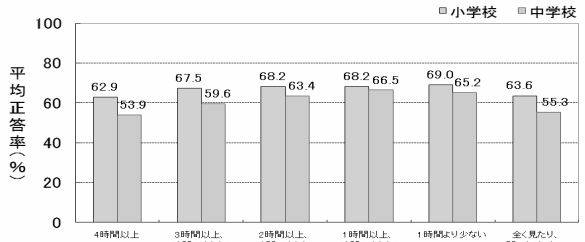
(16) 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あたりどのくらいの時間、勉強をしますか。

上段: 小5
下段: 中2

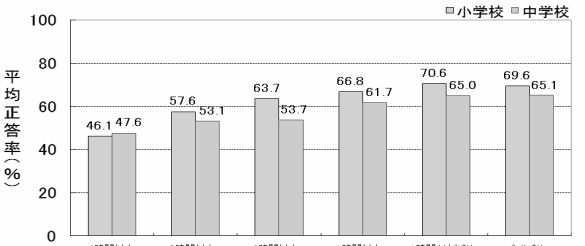


教科に関する調査とのクロス集計結果

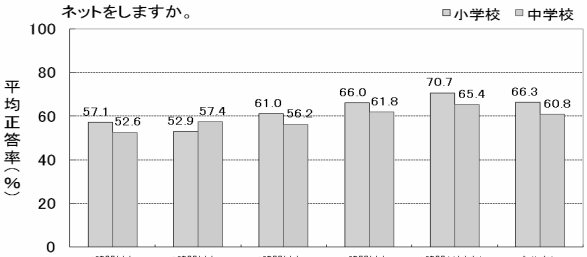
(12) 普段(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか。(テレビゲームをする時間は除きます。)



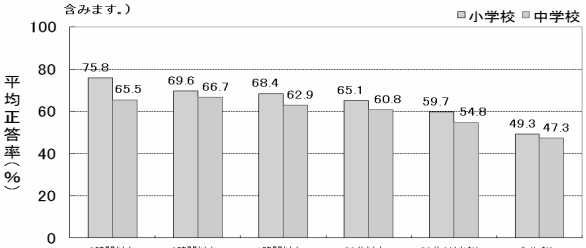
(13) 普段(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲームを含みます。)をしますか。



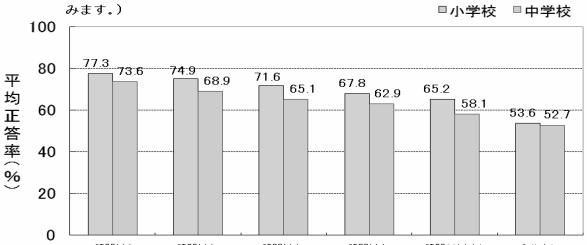
(14) 普段(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、インターネットをしますか。



(15) 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含みます。)



(16) 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あたりどのくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含みます。)



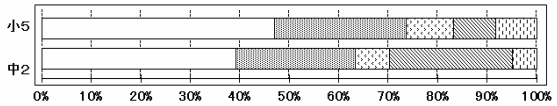
学習時間等

質問別回答結果

(17) 学習塾で勉強をしていますか。

上段：小5
下段：中2

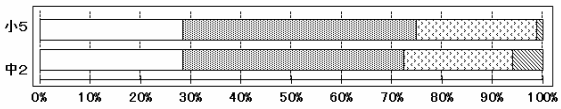
	小5	中2
① 学習塾に通っていない	47.2 %	39.3 %
② 学校の教科書より進んだ内容や、難しい内容を勉強している	26.5 %	24.0 %
③ 学校の教科書でよく分からなかった内容を勉強している	9.6 %	6.9 %
④ 上記②、③の両方の内容を勉強している	8.6 %	24.8 %
⑤ 上記②、③の内容のどちらともいえない	8.2 %	4.8 %
⑥	%	%



(18) 普段（月曜日から金曜日）、家でどのような勉強をしていますか。

上段：小5
下段：中2

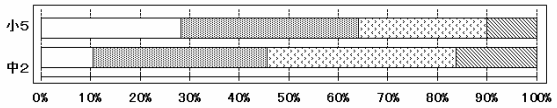
	小5	中2
① 学校の宿題だけでなく、自分で考えて勉強している	28.5 %	28.5 %
② 学校の宿題だけでなく、家の人や塾などから言われた勉強をしている	46.5 %	43.9 %
③ 学校の宿題だけはしている	23.9 %	21.6 %
④ 家では勉強していない	1.1 %	5.9 %
⑤	%	%
⑥	%	%



(19) 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。

上段：小5
下段：中2

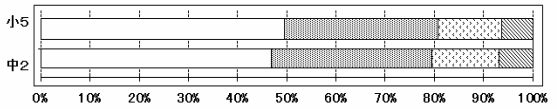
	小5	中2
① している	28.3 %	10.5 %
② どちらかといえば、している	35.8 %	35.1 %
③ あまりしていない	26.0 %	38.2 %
④ 全くしていない	9.9 %	16.2 %
⑤	%	%
⑥	%	%



(20) 読書は好きですか。

上段：小5
下段：中2

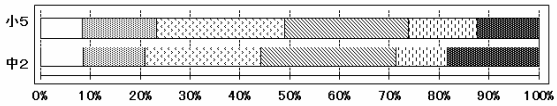
	小5	中2
① 好き	49.6 %	46.9 %
② どちらかといえば、好き	31.2 %	32.7 %
③ どちらかといえば、好きではない	13.0 %	13.7 %
④ 好きではない	6.2 %	6.7 %
⑤	%	%
⑥	%	%



(21) 家や図書館で、普段（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間 読書をしますか。

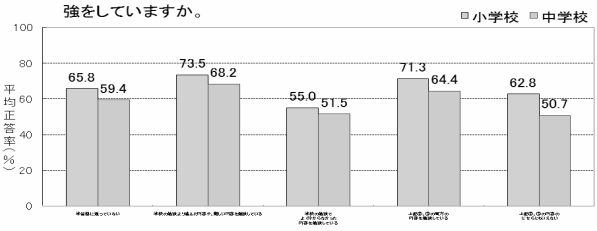
上段：小5
下段：中2

	小5	中2
① 2時間以上	8.5 %	8.6 %
② 1時間以上、2時間より少ない	14.9 %	12.5 %
③ 30分以上、1時間より少ない	25.7 %	23.2 %
④ 10分以上、30分より少ない	24.7 %	27.1 %
⑤ 10分より少ない	14.0 %	10.2 %
⑥ 全くしない	12.2 %	18.4 %

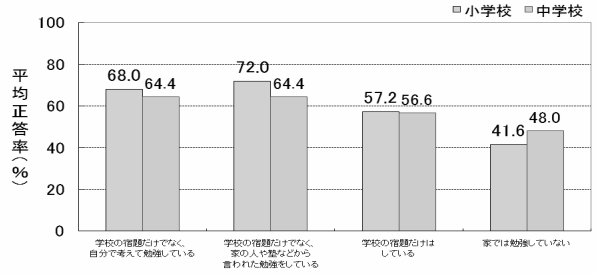


教科に関する調査とのクロス集計結果

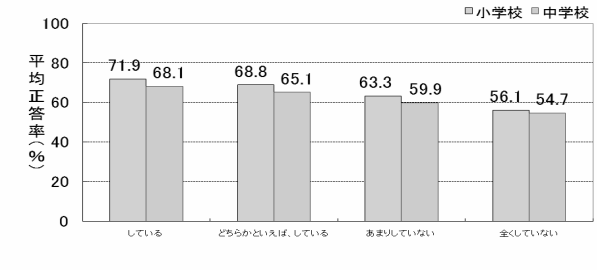
（17） 学習塾（家庭教師の先生に教わっている場合も含みます。）で勉強をしていますか。



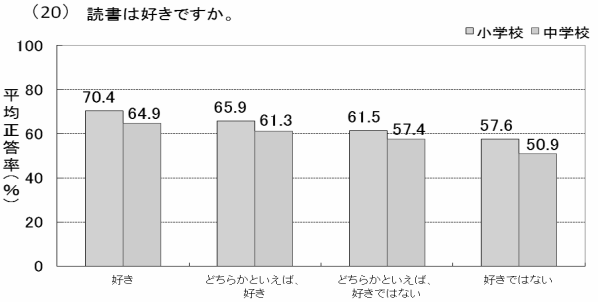
（18） 普段（月曜日から金曜日）、家でどのような勉強をしていますか。



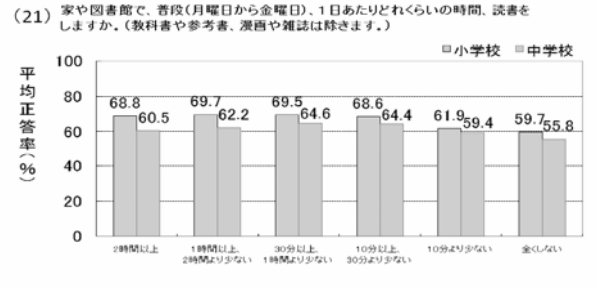
（19） 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。



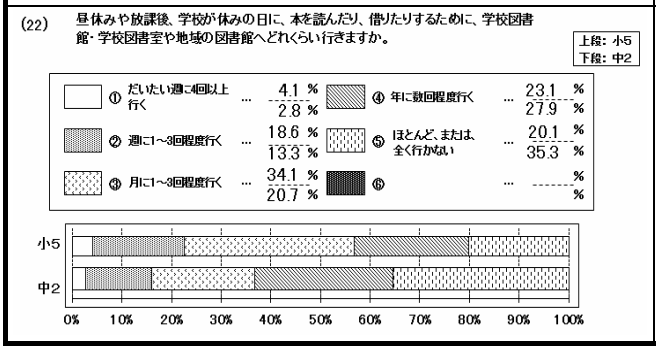
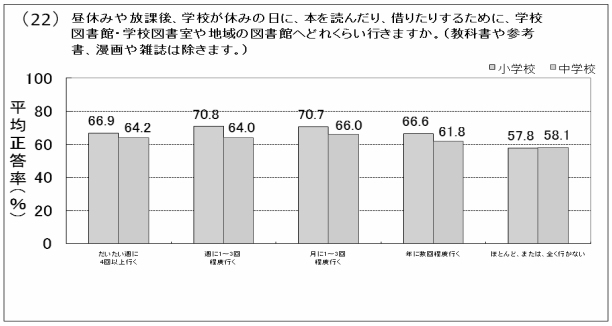
（20） 読書は好きですか。



（21） 家や図書館で、普段（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、読書をしますか。（教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます。）



学習時間等

質問別回答結果	教科に関する調査とのクロス集計結果
	

分析と考察

○質問（１４）では、平日に家でインターネットを利用する時間について、小５の 56.1%が「全くしない」、27.9%が「1 時間より少ない」と回答し、中２の 35.2%が「全くしない」、33.8%が「1 時間より少ない」と回答している。昨年度との比較では、特に中２で「全くしない」が 4.2 ポイント下がり、「１時間より少ない」「１～２時間未満」の回答が若干ずつポイントを上げている。教科に関する調査とのクロス集計結果を見てみると、昨年度と同様、「３時間以上」と回答した児童生徒の平均正答率は低くなる傾向が見られる。

○質問（１８）では、家庭で取り組む勉強について、普段、何らかのかたちで「家で勉強している」と肯定的な回答した児童生徒は、小５では 98.9%、中２では 94.1%である。ほとんどの児童生徒が家で勉強に取り組んでいることがわかる。教科に関する調査とのクロス集計結果では、小５では「学校の宿題だけでなく、家の人や塾などから言われた勉強をしている」と回答した児童が 72.0%と最も高い。中２では「宿題以外にも勉強している」「学校の宿題だけでなく、家の人や塾などから言われた勉強をしている」と回答した生徒がそれぞれ 64.4%と最も高い。正答率の最も低い「家では勉強していない」と比較すると、小５で 30.4 ポイント、中２で 16.4 ポイントの差があり、特に小５ではその差が顕著である。

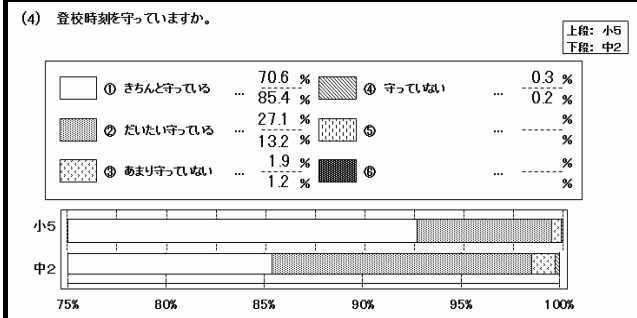
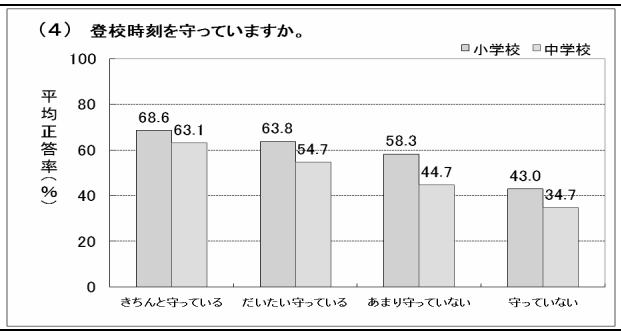
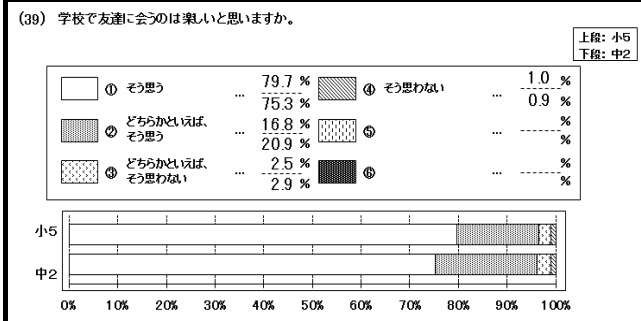
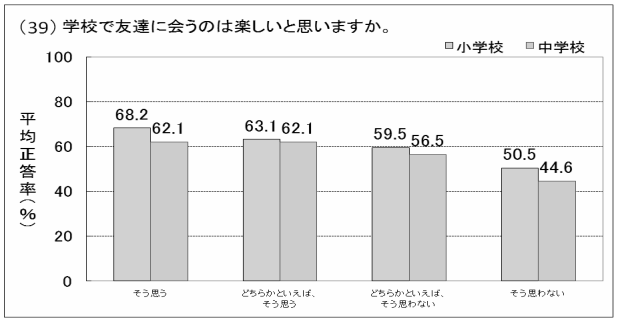
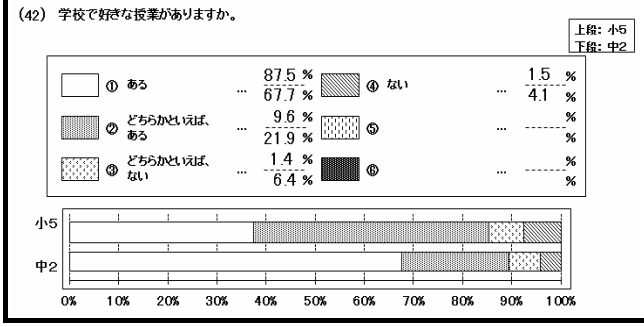
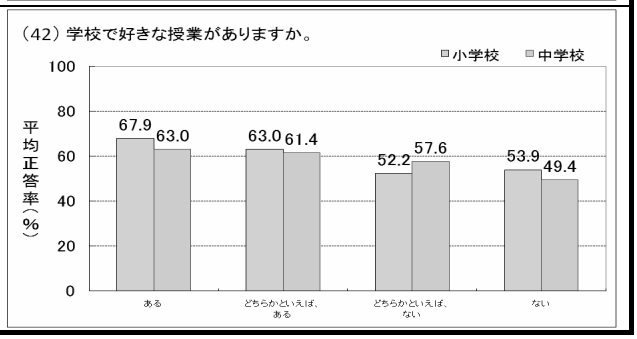
提　言

◎　学力の確実な定着には、学校での学習に加え、家庭での取組が重要である。児童生徒の放課後の生活はますます多様になっていることから、その取組を児童生徒一人ひとりの実態に合わせ、適切に計画・実践していくことが望まれる。家庭学習プランを自己決定できるよう、学校では教科指導や学級活動に関連させて児童生徒の意識を高めたり、計画づくりの課題を与えたりして取り組むことが大切である。

◎　「学びの向上さいたまプラン」では、家庭に呼びかける内容の一つとして、「家庭学習の時間をつくりましょう」の言葉を掲げている。家庭学習について、宿題やそれ以外の学習に意欲的に取り組めるよう、学校だよりや学年だより、懇談会や個人面談、家庭訪問等で、家庭に積極的に呼び掛ける必要がある。その際、学校や学年単位で、資料を揃え、全教員がすべての家庭に等しく情報提供できるよう配慮することが大切である。

◎　日常生活の中で情報化が進み、便利さが増えていく中、各学校では、「携帯･インターネット安全教室」などの講習会や様々な場面において、児童生徒に情報モラルやマナー、利用方法について、考えさせることが必要である。保護者に対しても、家庭内での約束を決めることなど、啓発的活動については、さらに積極的に行っていく必要がある。

学校生活

質問別回答結果	教科に関する調査とのクロス集計結果
	
	
	

分析と考察

○質問（３９）では、学校で友だちと会うことについて、「楽しい」「どちらかといえばそう思う」と回答した児童生徒が、小５では 96.5%、中２では 96.2%である。昨年度のデータと比較しても、小５は 96.8%、中２は 96.0%で、ほぼ同じ結果である。平均正答率とのクロス集計でも、「そう思う」と回答した割合が最も高い。また質問（４２）では、「学校で好きな授業があるか」という質問に、「ある」「どちらかと言えばある」と回答した児童生徒は、小５で 97.1%、中２では 89.6%である。昨年度のデータと比較すると、小５は 96.0%、中２では 88.4%であり、ほぼ同じ結果である。また、教科とのクロス集計からも、「そう思う」と答えた児童生徒の平均正答率が最も高いことがわかる。

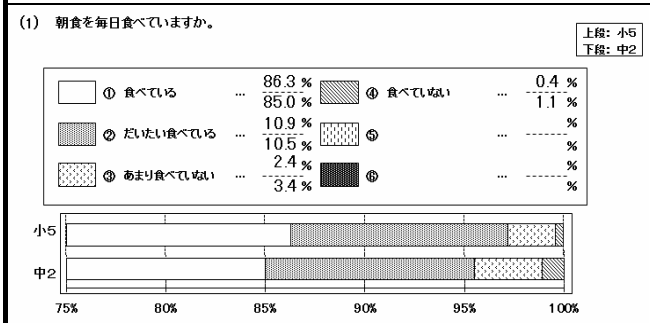
提　言

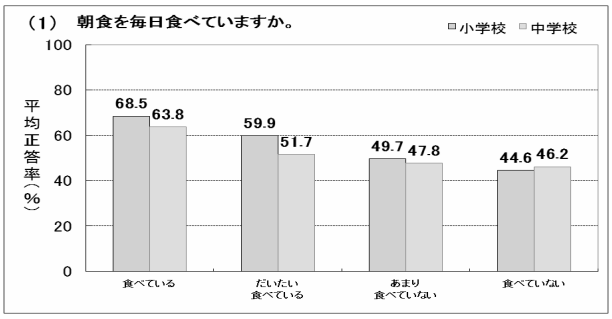
◎　「魅力ある学校づくり」「一人ひとりの存在感があり、認め合える学級づくり」など、学校や学級での生活環境づくりの工夫や改善を図ることが必要である。学校行事などを通しての取組はもちろんのこと、日々の生活の中で、一人ひとりが活躍できる場面の設定や、認め合う温かい雰囲気づくりが大切である。また、学習面については、「学びの向上さいたまプラン」の中にもあるように、

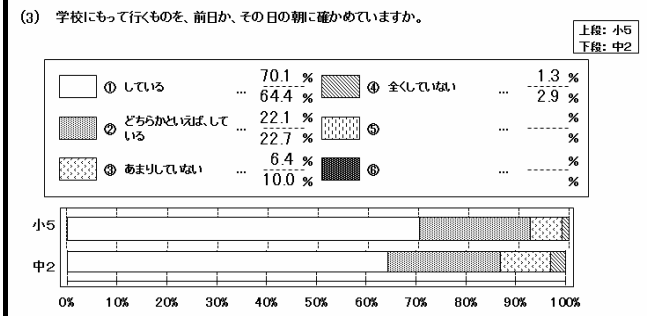
「確かな学力」（①基礎的・基本的な知識・技能②知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等③学習意欲）を児童生徒に身に付けさせることが大切である。そのために、指導内容・方法の工夫改善を図ること、教員の指導力を向上させること、教育環境の整備などに努める必要がある。

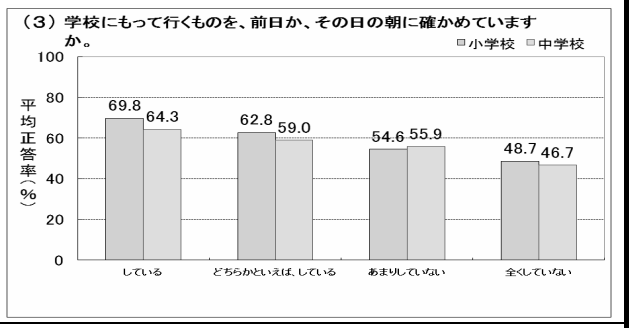
基本的生活習慣

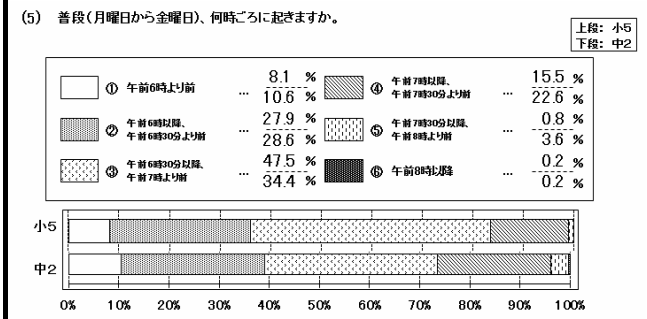
質問別回答結果	教科に関する調査とのクロス集計結果

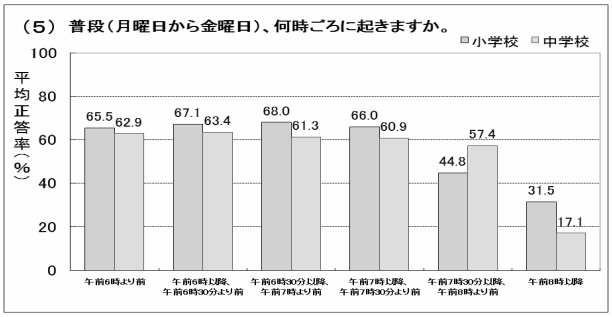


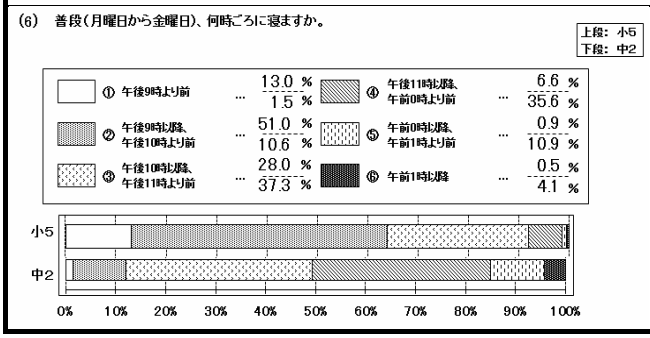


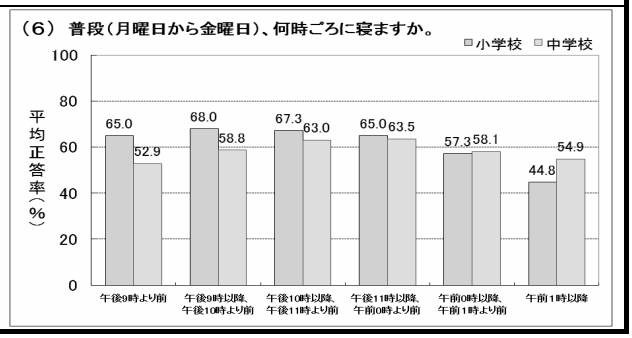




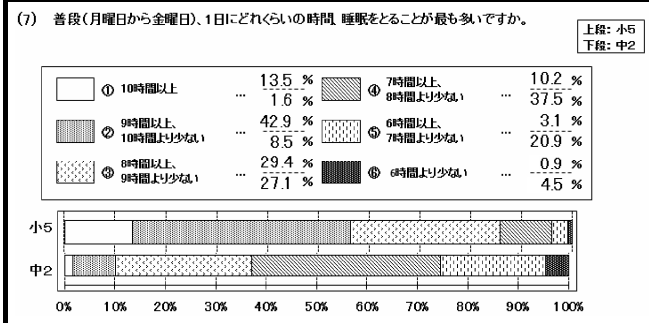
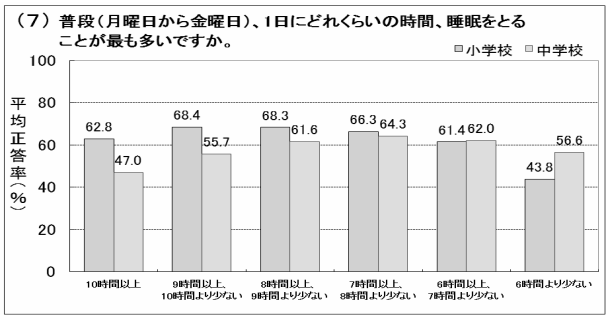
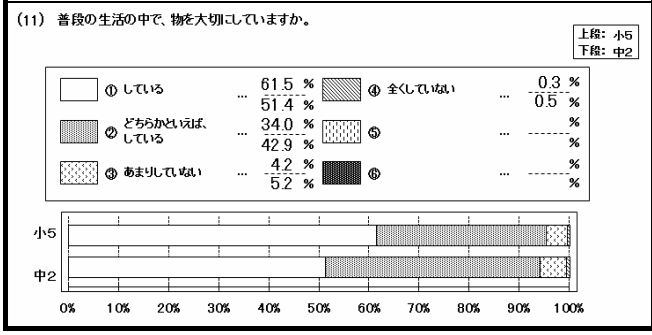
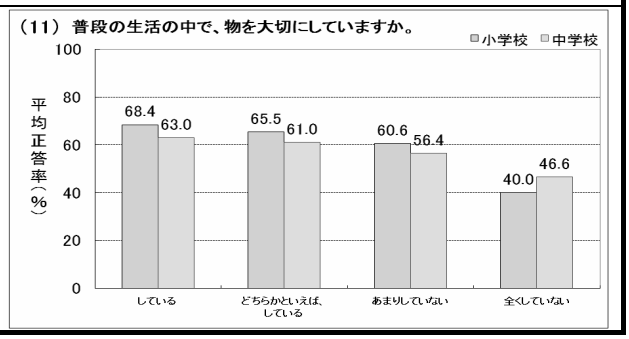








基本的生活習慣

質問別回答結果	教科に関する調査とのクロス集計結果
	
	

分析と考察

○質問（1）では、朝食を毎日食べているということについて、小５では86.3%、中２では85.0%が「食べている」と回答しており、小・中で大差はない。教科に関する調査とのクロス集計結果から、「食べている」と回答した児童生徒と、「食べていない」と回答した児童生徒の平均正答率を比較すると、「食べている」と回答した児童生徒が、小５では23.9ポイント、中２では17.6ポイント高くなっている。「食べている」と回答した児童生徒と、「だいたい食べている」と回答した児童生徒の平均正答率を比較すると、「食べている」と回答した児童生徒が、小５では8.6ポイント、中２では12.1ポイント高くなっている。これらのことから、朝食を毎日食べる児童生徒の平均正答率は、高くなる傾向にあることが分かる。

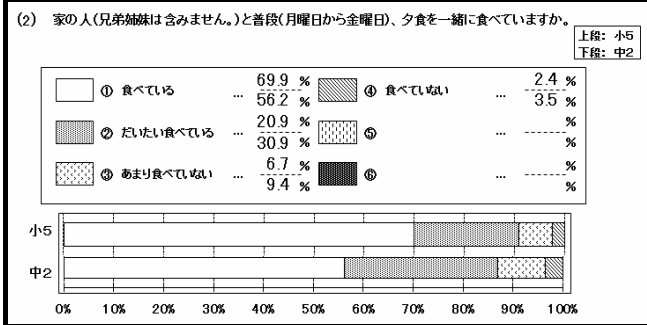
○質問（3）では、学校にもって行くものの準備について、小５では70.1%、中２では64.4%の児童生徒が「している」と回答しており、小・中で5.7ポイントの差がある。昨年度の調査と比較すると「している」と回答した割合が、小５で4.6ポイント、中２で4.2ポイント高くなっている。教科に関する調査とのクロス集計結果から、「している」と回答した児童生徒と「全くしていない」と回答した児童生徒の平均正答率を比較すると、「している」と回答した小５が21.1ポイント、中２が17.6ポイント高くなっている。これらのことから、持ち物の準備をきちんとする児童生徒の平均正答率は、高くなる傾向にあることが分かる。

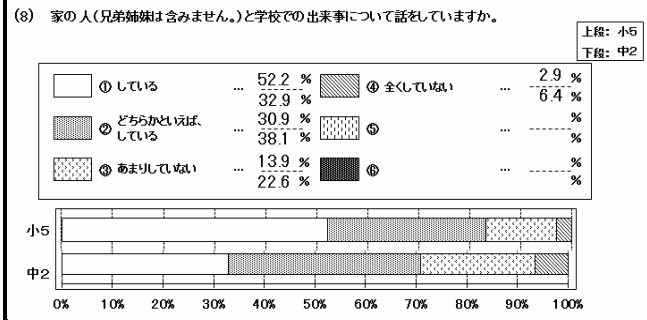
提　言

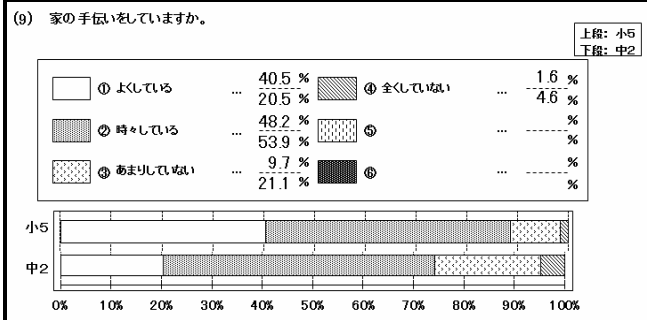
◎　児童生徒が健やかに成長し、確かな学力を身に付けるには、規則正しい生活習慣を身に付けていることが重要となる。そこで、保護者と朝食について考える時間を設けたり、給食だよりや保健だより等でお勧めの献立を載せたりするなど、家庭に向けての啓発が大切である。また、生活チェックカードなどを活用し、「早寝・早起き・朝ごはん」の実践を自己評価して生活を振り返る機会を多く与え、生活リズムが崩れないよう、小学校の段階で習慣化を図ることが大切である。

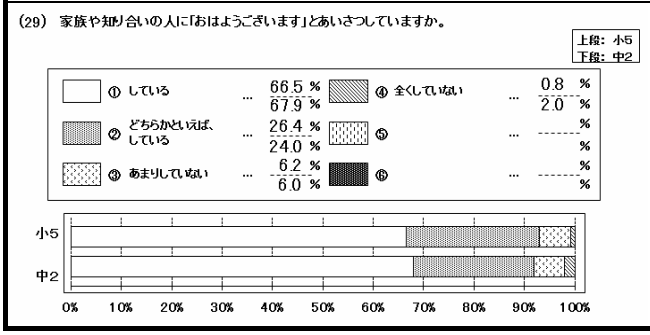
家庭でのコミュニケーション

質問別回答結果

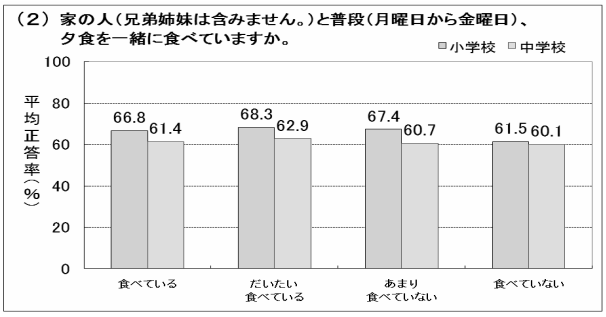


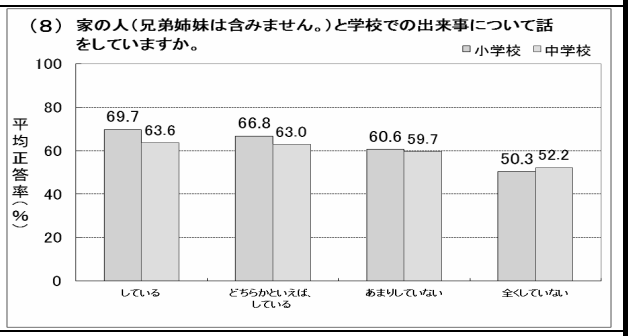


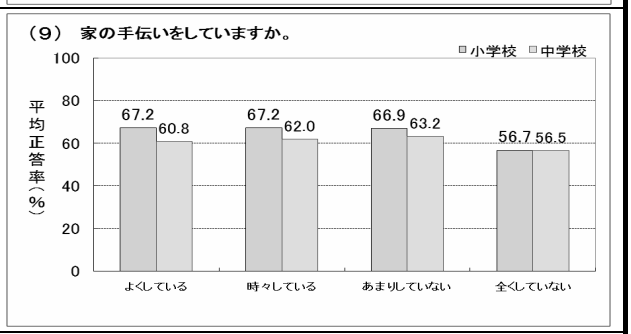


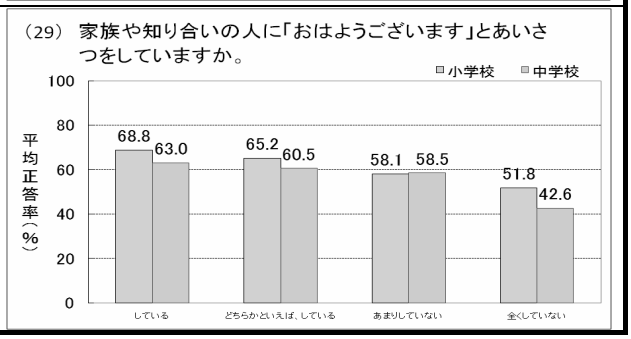


教科に関する調査とのクロス集計結果









分析と考察

○質問（８）では、「学校での出来事に関する家族との会話」について、「している」「どちらかといえばしている」と肯定的回答をした児童生徒は、小５が 83.1%、中２では 71.0%であり、昨年度は小５が 81.6%、中２が 68.7%で、今年度が若干高くなっている。教科に関する調査とのクロス集計結果を見ると、「話している」と回答した児童生徒の平均正答率が最も高く、「全くしていない」の平均正答率が最も低い。小５では「話している」と回答した児童の平均正答率が 69.7%であったのに対し、「全く話していない」と回答した児童の平均正答率は 50.3%で、その差は 19.4 ポイントと大きく開いている。

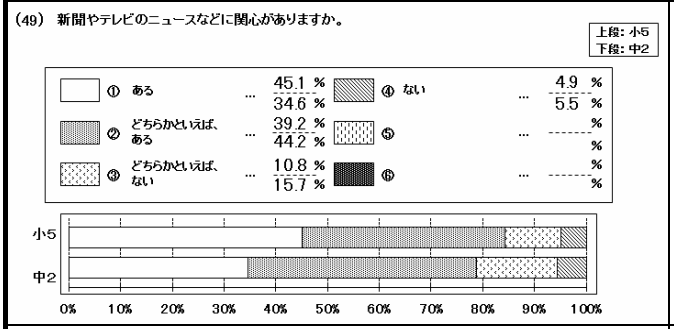
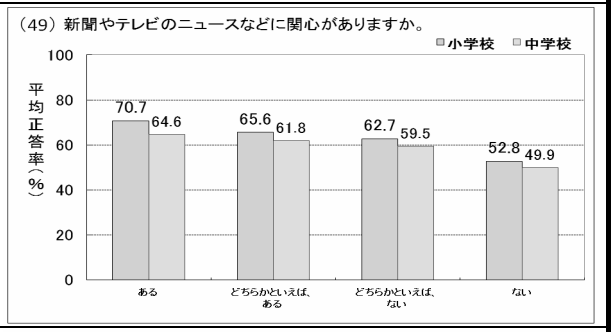
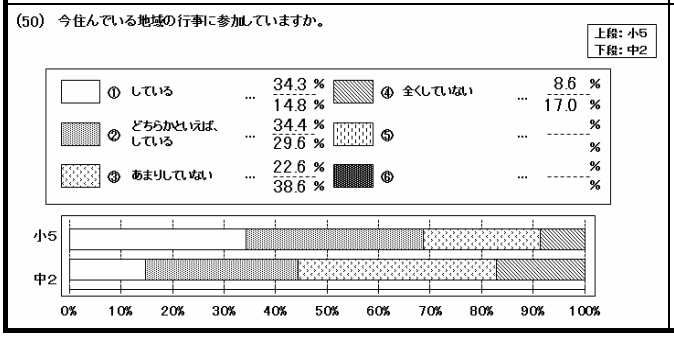
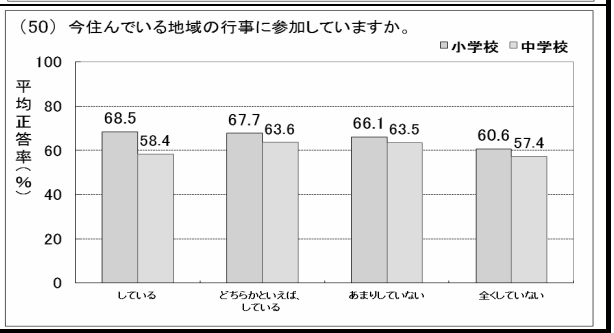
○質問（９）では、家の手伝いについて、「している」「時々している」と肯定的に回答した児童生徒は、小５が 88.7%、中２では 74.4%である。昨年度と比べ小５はほとんど差がないが、中２では 6.9 ポイント上回っており、「全くしていない」の割合も、昨年度の 7.8%から今年度は 4.6%と下回っている。教科に関する調査とのクロス集計結果では、小・中ともに「よくしている」「時々している」「あまりしていない」までは平均正答率に大きな差は見られないが、「全くしていない」と回答した小５の平均正答率は、他の児童と 10 ポイント以上低い 56.7%である。

提　言

◎　学習をはじめ、さまざまなことに意欲をもって取り組むには、安心できる家族とのコミュニケーションが重要である。そのためにさいたま市では、「すくすく　のびのび　子どもの生活習慣向上」キャンペーンに取り組み、「今　大切なのは　家族で　元気・学び・会話」をキャッチフレーズに、児童生徒の生活習慣の一層の向上を目指している。様々なイベントに「親子で参加」をしたり、その話題を親子で共有する機会が重要である。また、一緒に本や新聞を読んだり、家庭学習をしたり、お手伝いをしたりすることによって親子で共有する機会や時間を増やすようにするなど、家庭に呼び掛けることも大切である。

◎　児童生徒が学級などの集団の中で自己有用感をもつのは、その集団に対して役立った働きをし、誉められたり、お礼を言われたりするなどして満足感を得たときである。集団の中で、児童生徒の役割を増やすことにより、より多くの自己有用感を実感させることが可能となる。家庭においても同様であり、自分を必要な存在として認められる機会が大変重要である。「すくすく　のびのび　子どもの生活習慣向上」キャンペーンを通して、「お子さんがお手伝いをする機会をつくりましょう」と、家庭に呼びかけることが大切である。

社会に対する興味・関心

質問別回答結果	教科に関する調査とのクロス集計結果
	
	

分析と考察

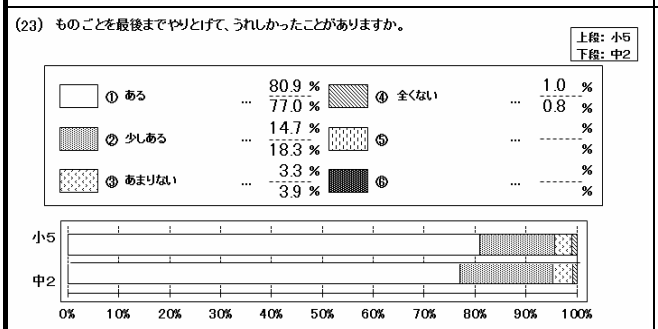
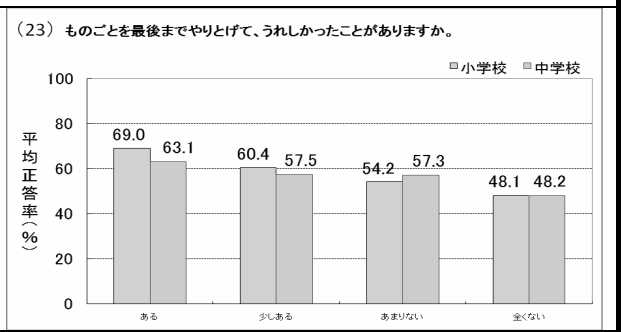
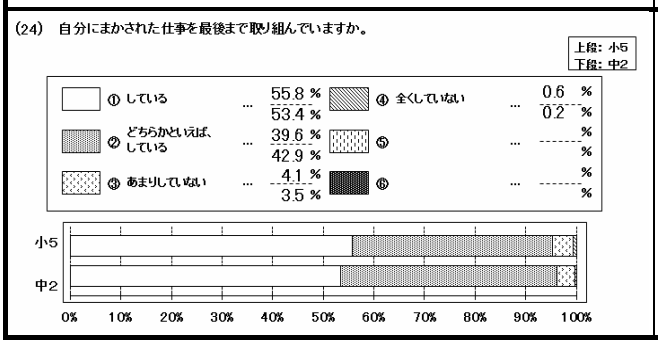
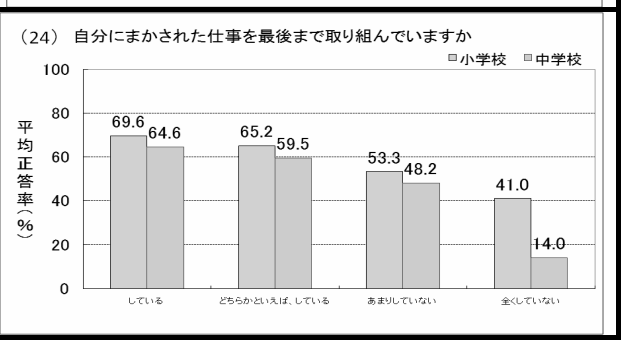
○質問（４９）では、新聞やテレビのニュースなどへの関心について、「関心がある」「どちらかといえば、ある」と肯定的に回答した児童生徒は、小５が 84.3%、中２では 78.8%である。昨年度と比較すると、小５で 5.8 ポイント、中２で 1.9 ポイント高くなっている。特に小５で「ある」と回答した児童の割合は昨年度と比べて 7.2 ポイント高くなっており、新聞やテレビのニュースに関心をもっている児童が増えている。教科に関する調査とのクロス集計結果から、「関心がある」と回答した児童生徒と「関心がない」と回答した児童生徒の平均正答率を比較すると、「関心がある」と回答した小５では 17.9 ポイント、中２では 14. 7 ポイント高くなっている。これらのことから、児童生徒が、ニュースに関心をもつと学力の向上につながると考えられる。

○質問（５０）では、地域の行事への参加について小５で 68.7%、中２では 44.4%の児童生徒が、「している」「どちらかといえばしている」と肯定的に回答している。昨年度の調査と比較すると、肯定的に答えた小５は 1.8 ポイント、中２は 1.9 ポイント高くなっている。

提　言

◎　ニュースへの関心と基礎学力との相関関係から、社会的・歴史的事象を巧みに取り上げて学習に生かす習慣を身に付けることが重要である。「読み、書き、そろばんプロジェクト」の推進内容の一つであるＮＩＥの活動をさらに進めていくことが大切である。新聞を使った授業を行うことで、社会に関心を向けるきっかけとなるだけでなく、家庭でのコミュニケーションが増えるなどの効果も期待できると考える。

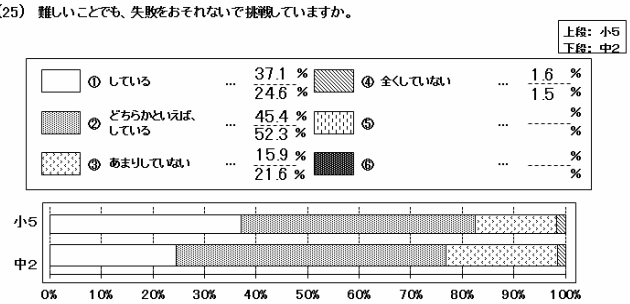
自尊意識

質問別回答結果	教科に関する調査とのクロス集計結果
	
	

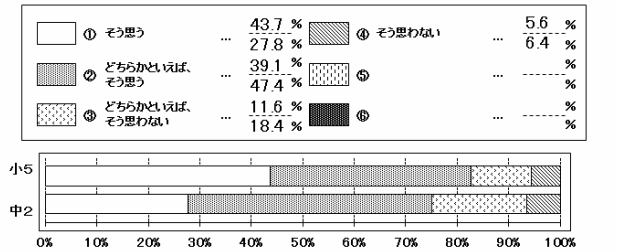
自尊意識

質問別回答結果

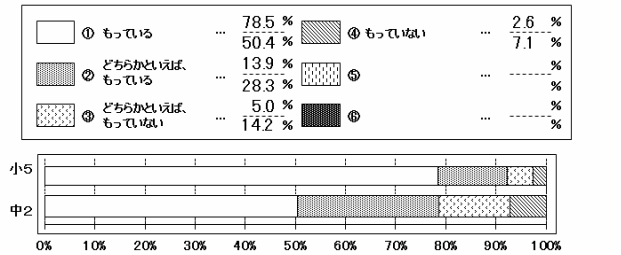
(25) 難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦していますか。



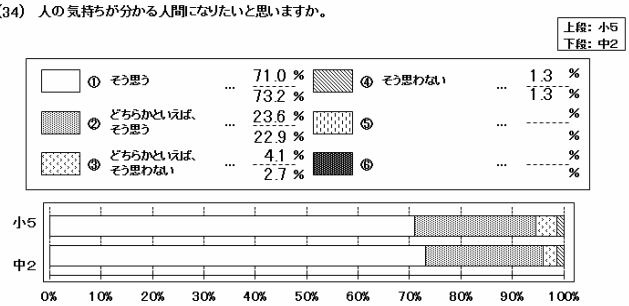
(26) 自分には、よいところがあると思いますか。



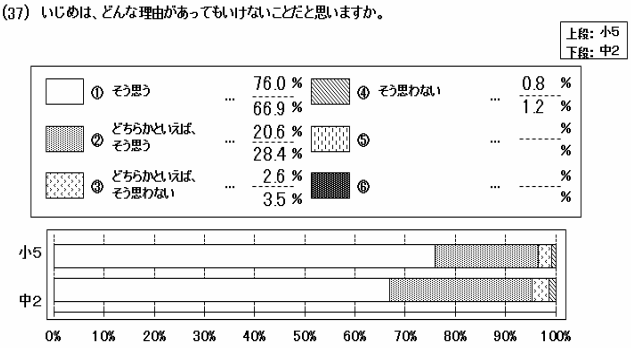
(27) 将来の夢や目標をもっていますか。



(34) 人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか。

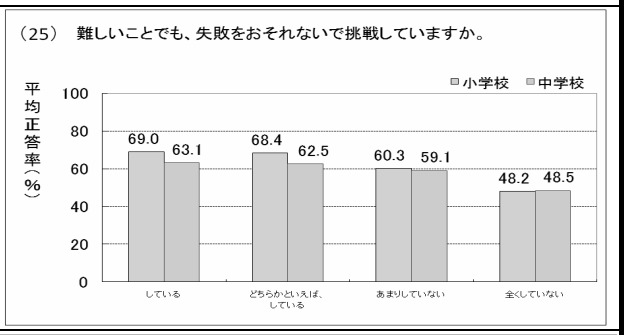


(37) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。

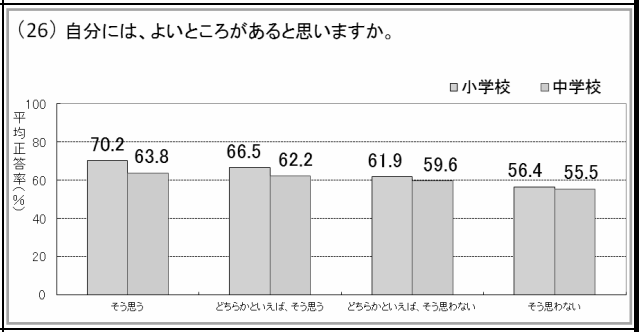


教科に関する調査とのクロス集計結果

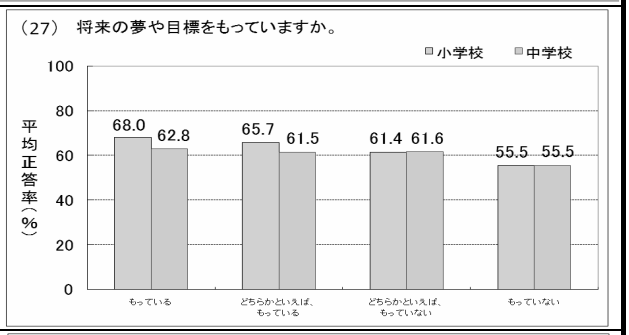
(25) 難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦していますか。



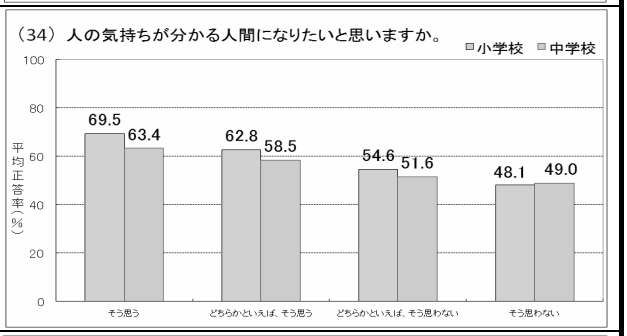
(26) 自分には、よいところがあると思いますか。



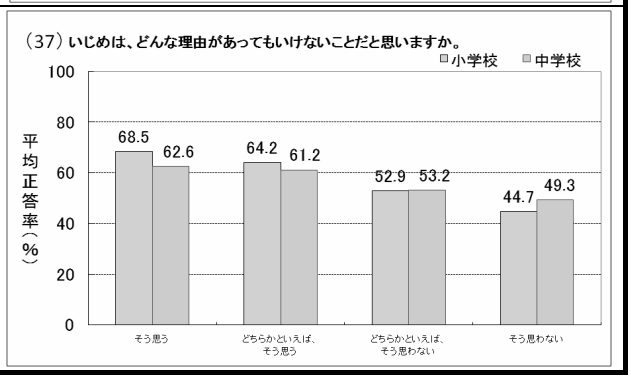
(27) 将来の夢や目標をもっていますか。



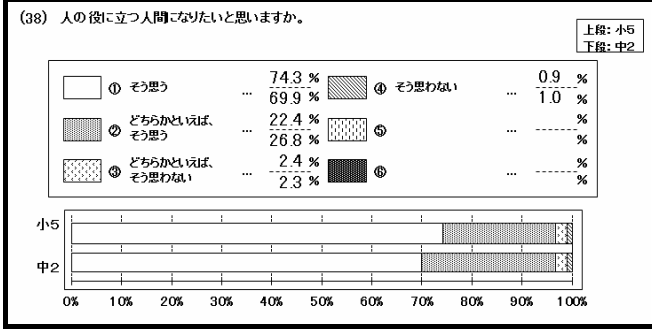
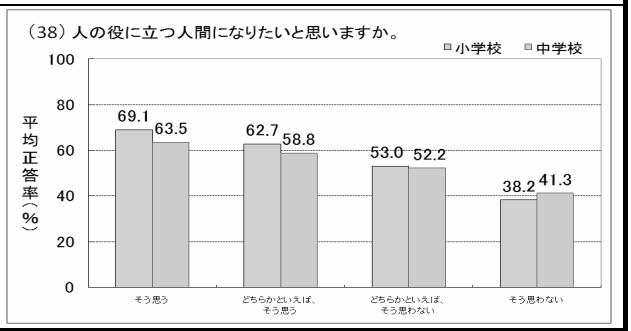
(34) 人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか。



(37) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。



自尊意識

質問別回答結果	教科に関する調査とのクロス集計結果
	

分析と考察

○質問（２４）では、自分にまかされた仕事への取組について、「している」「どちらかといえばしている」と肯定的に回答した児童生徒は、小５が 95.4%、中２が 96.3%で、ほとんどの児童生徒が自分にまかされた仕事を最後まで取り組んでいると回答している。教科に関する調査とのクロス集計結果を見ると、自分にまかされた仕事を最後まで取り組んでいると答えた児童生徒ほど、平均正答率が高い傾向にある。

○質問（３４）では、人の気持ちが分かる人間になりたいかということについて、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した児童生徒は、小５は 94.6%、中２は 96.1%で、ほとんどの児童生徒が肯定的な回答をしている。教科に関する調査とのクロス集計結果を見ると、「そう思う」と回答した児童生徒の平均正答率は、「そう思わない」と回答した児童生徒に比べて、小５で 21.4 ポイント、中２で 14.4 ポイント高くなっている。

○質問（３８）では、人の役に立つ人間になりたいと「思う」「どちらかといえば、そう思う」と肯定的に回答した児童生徒は、小５、中２ともに 96. ７%であり、ほとんどの児童生徒が役に立つ人間になることを願っている。昨年度の調査結果と比較すると、わずかではあるが全体的にポイントが高くなっている。また、昨年度の教科に関する調査とのクロス集計結果と比較すると、「どちらかといえば、そう思わない」と回答した小５で 7.2 ポイント、「そう思わない」と回答した小５で 16.5 ポイント、中２で 6.2 ポイント平均正答率が低くなっている。

提　言

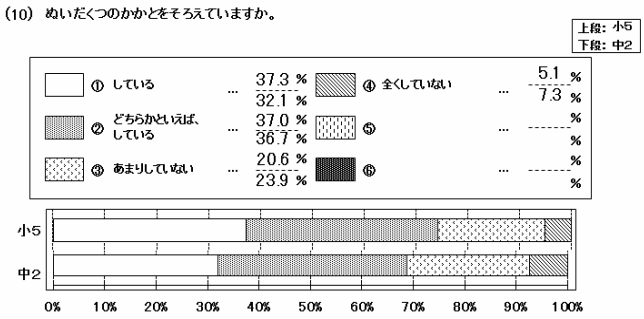
◎　成功体験を味わわせることで自己有用感をもたせていく。さらに、一人ひとりに目標をもたせるとともに、評価カード等を活用して、児童生徒のよさや進歩の状況を積極的に評価することで、自信をもたせ、活動意欲を高める工夫をしていくことが大切である。

◎　小･中学校９年間を見通した生き方指導としての進路指導･キャリア教育を推進するとともに、中学生職場体験事業「未来くるワーク体験」を核とした、進路に関する啓発的な体験活動のより一層の充実を図る必要がある。

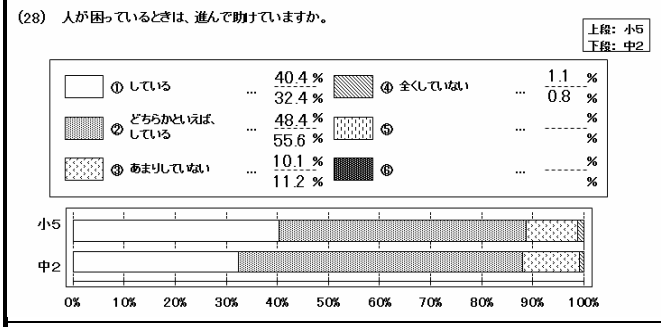
規範意識等

質問別回答結果

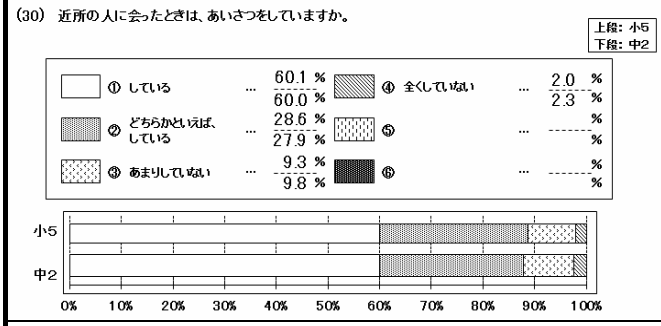
(10) ぬいだくつのかかとをそろえていますか。



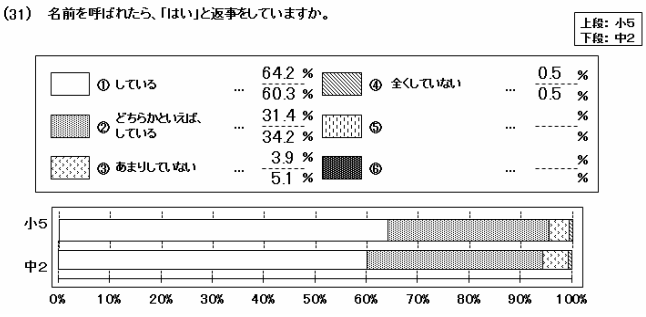
(28) 人が困っているときは、進んで助けていますか。



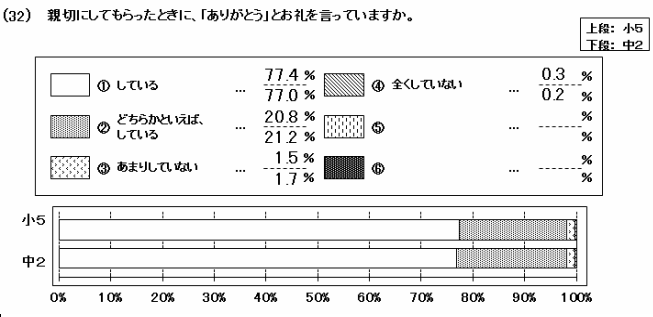
(30) 近所の人に会ったときは、あいさつをしていますか。



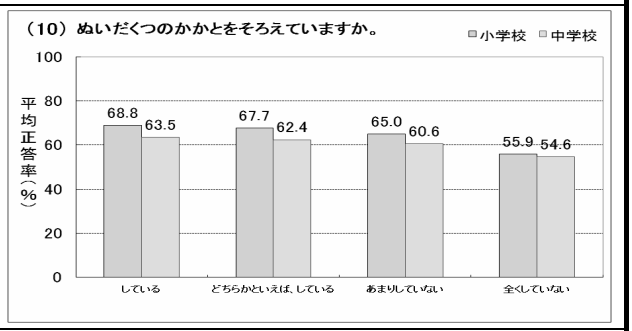
(31) 名前を呼ばれたら、「はい」と返事をしていますか。

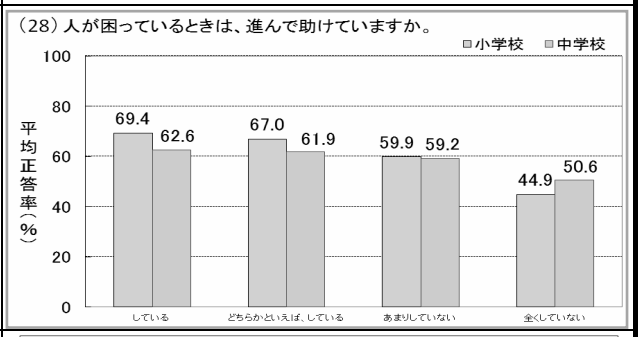


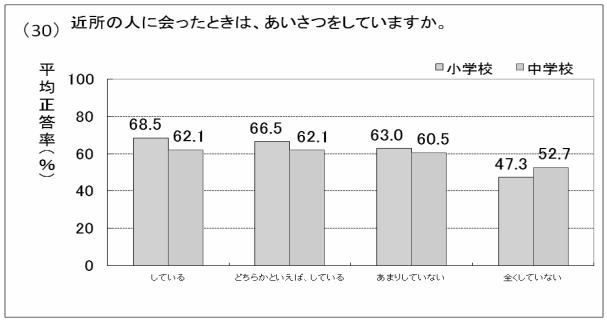
(32) 親切にしてもらったときに、「ありがとう」とお礼を言っていますか。

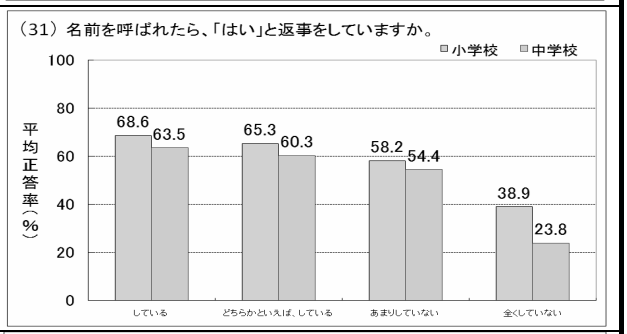


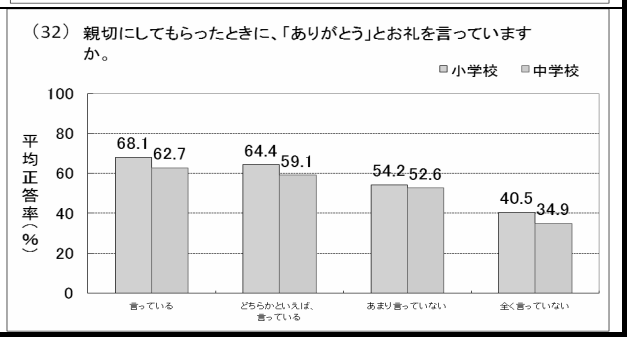
教科に関する調査とのクロス集計結果











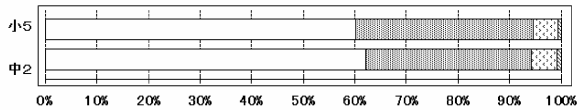
規範意識等

質問別回答結果

(33) めいわくや心配をかけたときに、「ごめんなさい」と言って、謝っていますか。

上段：小5
下段：中2

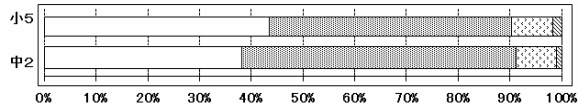
	小5	中2
① している	60.3 %	62.2 %
② どちらかといえば、している	34.3 %	32.0 %
③ あまりしていない	4.9 %	5.1 %
④ 全くしていない	0.5 %	0.7 %
⑤	%	%
⑥	%	%



(35) 相手の気持ちを考えながら、話をしていますか。

上段：小5
下段：中2

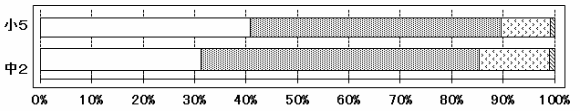
	小5	中2
① している	43.5 %	38.2 %
② どちらかといえば、している	46.8 %	53.0 %
③ あまりしていない	8.1 %	7.9 %
④ 全くしていない	1.6 %	0.9 %
⑤	%	%
⑥	%	%



(36) 学級の誰とでもなかよくしていますか。

上段：小5
下段：中2

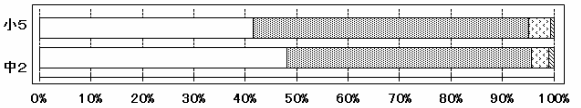
	小5	中2
① している	40.8 %	31.3 %
② どちらかといえば、している	48.9 %	54.1 %
③ あまりしていない	9.6 %	13.7 %
④ 全くしていない	0.7 %	0.9 %
⑤	%	%
⑥	%	%



(40) 学校の規則(きまり)を守っていますか。

上段：小5
下段：中2

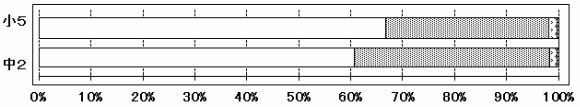
	小5	中2
① きちんと守っている	41.6 %	48.2 %
② だいたい守っている	53.6 %	47.4 %
③ あまり守っていない	4.3 %	3.3 %
④ 守っていない	0.6 %	1.0 %
⑤	%	%
⑥	%	%



(41) 友達との約束を守っていますか。

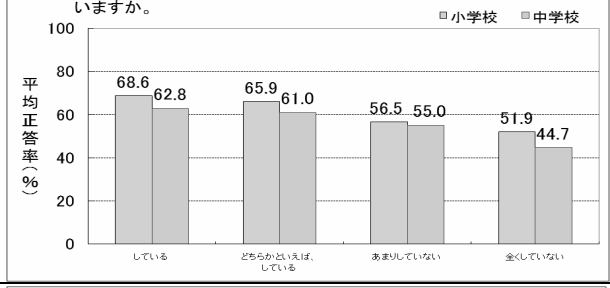
上段：小5
下段：中2

	小5	中2
① きちんと守っている	66.8 %	60.7 %
② だいたい守っている	31.4 %	37.7 %
③ あまり守っていない	1.6 %	1.3 %
④ 守っていない	0.2 %	0.3 %
⑤	%	%
⑥	%	%

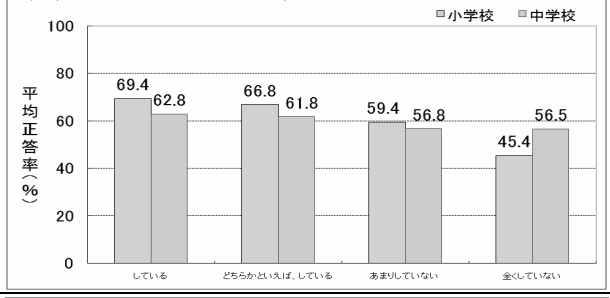


教科に関する調査とのクロス集計結果

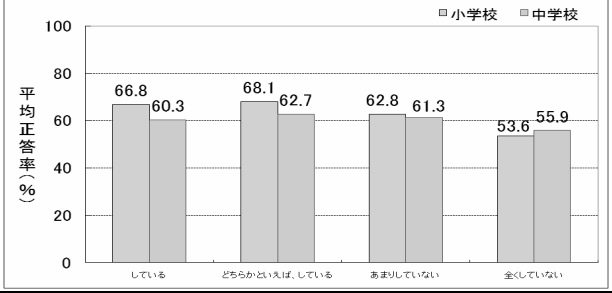
(33) めいわくや心配をかけたときに、「ごめんなさい」と言って、謝っていますか。



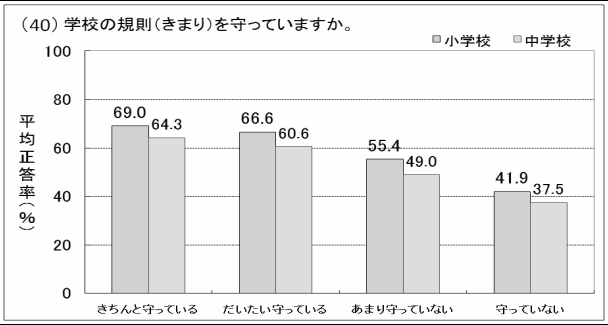
(35) 相手の気持ちを考えながら、話をしていますか。



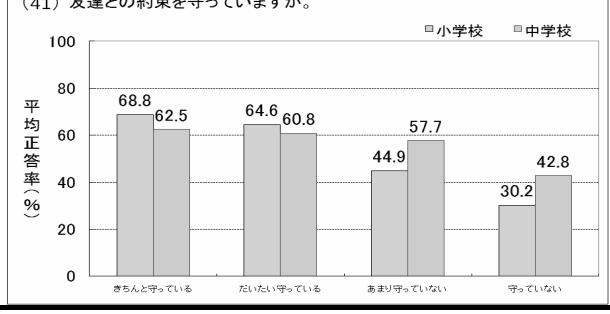
(36) 学級の誰とでもなかよくしていますか。



(40) 学校の規則（きまり）を守っていますか。



(41) 友達との約束を守っていますか。



分析と考察

○質問（２８）では、人が困っているときに進んで助けることについて、「している」「どちらかといえばしている」と肯定的に回答した児童生徒は、小５が 88.8%、中２が 88.0%であり、回答結果の大まかな分布は昨年度と変わっていない。しかし中２については、昨年度と比べて「している」と回答した生徒の割合が 6.8 ポイント高く、「あまりしていない」と回答した割合は 5.0 ポイント低くなっており、人が困っているときに進んで助けるという生徒の割合が増加していることが分かる。また、教科に関するクロス集計結果について、「している」と回答した小５の平均正答率は、「していない」と回答した平均正答率と比べて、24.5 ポイントも高くなっている。

○質問（３０）では、近所の人に会ったときのあいさつについて、「している」「どちらかといえば、している」と肯定的に回答した児童生徒は、ともに 87%を超えている。また、質問（３１）（３２）（３３）では、いずれについても「している」「どちらかといえば、している」と回答した児童生徒の割合が 90%を超えており、それぞれの回答の分布もほぼ同じである。また、教科に関するクロス集計結果については、いずれの質問においても、肯定的な回答をした児童生徒ほど平均正答率が高くなっている。

○質問（３７）では、いじめはどんな理由があってもいけないと思うことについて、回答結果の大まかな分布は昨年度と変わっていない。しかし、中２で「そう思う」と回答した割合が、昨年度の 62.9%から今年度 66.9%と、4.0 ポイント上昇しており、いじめはどんな理由があってもいけないことだと

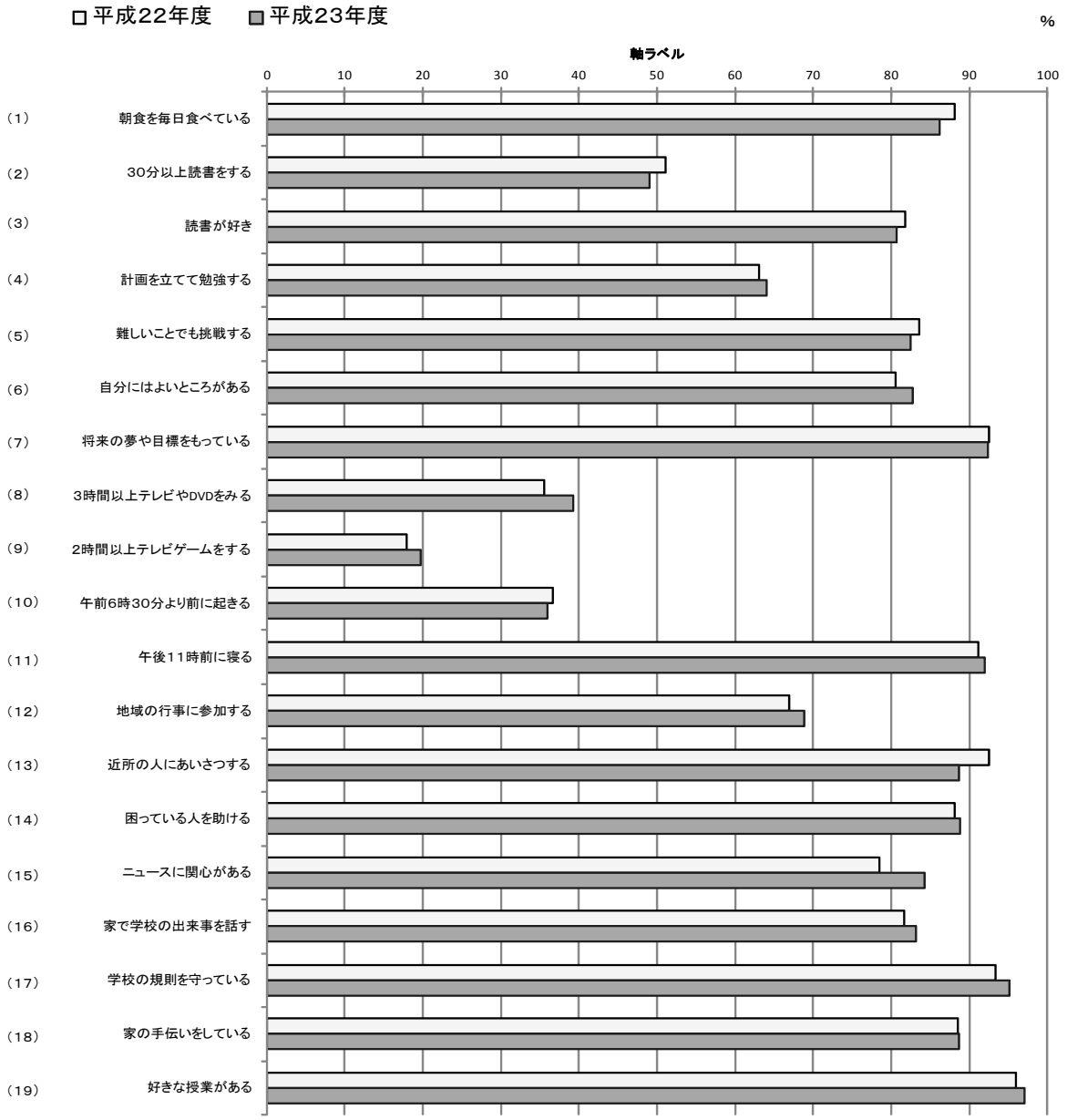
提　言

◎　多くの児童生徒が「はい」「ありがとう」「ごめんなさい」「おはようございます」などのあいさつをすることができるようになっている。今後も人間関係プログラムやあいさつ運動などを通して、「心を潤す４つの言葉」を推進し、さらなる定着を図っていくことが大切である。

◎　規範意識等に関しては、ほとんどの質問に対して多くの児童生徒が肯定的な回答をしている。今後もより一層の道徳教育の充実を図るとともに、児童会・生徒会活動を中心とした呼び掛けや点検活動、学校行事や日々の学校生活での他者との関わりなどを通して、自らの手でよりよい学校生活を築こうとする態度を育てていくことが大切である。

市の施策と関連の深い１９項目における２年間の調査比較（小５）

※各質問項目に対し、望ましい回答をした割合の比較（ただしテレビ、ゲームは望ましくない回答割合による比較）



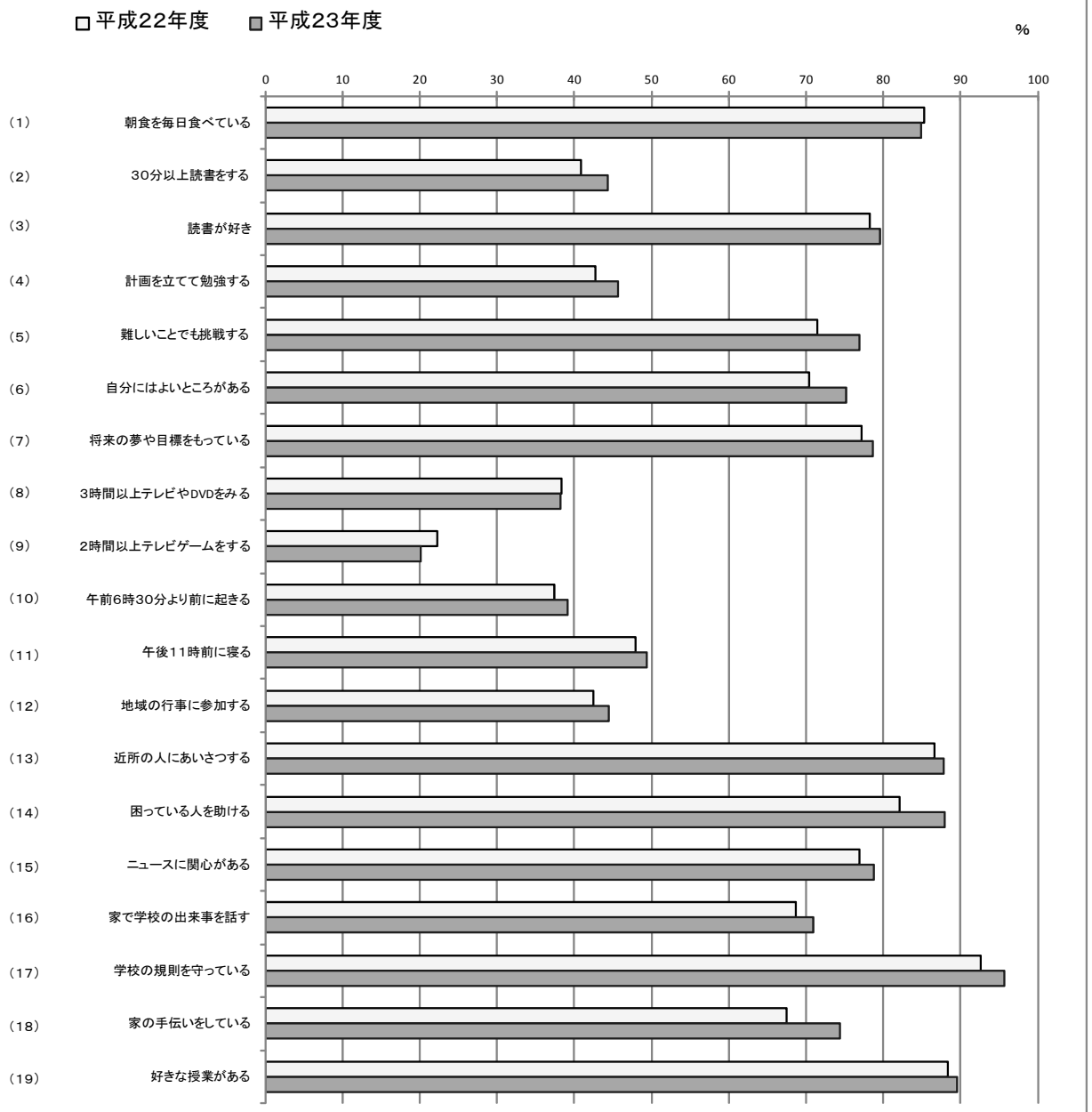
分析と考察

19項目中、昨年度を上回った項目は8項目である。そのうち、はっきりと向上した項目は、（15）「ニュースへの関心」である。昨年度と比較し、5．8ポイントも高まっている。東日本大震災の影響があるものと推測されるが、今後も幅広くニュースに関心をもってもらい、人とのコミュニケーションや学習、生き方を見つめることなどに生かすことができるよう、NIEの推進等を心がけていくようにしたい。

19項目中、下回った項目も8項目である。特に顕著なのは、（13）「近所の人への挨拶」3．9ポイント、（8）「3時間以上のテレビ、ビデオ、DVD 視聴」3．7ポイントである。生活マナーや生活習慣にわずかではあるが下降傾向がみられる。再度、家庭や地域に啓発を図り、学校、家庭、地域での連携を大切にした指導が望まれる。

市の施策と関連の深い19項目における2年間の調査比較（中2）

※各質問項目に対し、望ましい回答をした割合の比較（ただしテレビ、ゲームは望ましくない回答割合による比較）



分析と考察

19項目中、昨年度を上回った項目は17項目である。全体的に生活・学習への意欲や意識が向上している。顕著に上回った項目は、（18）「家の手伝いをしている」が6．9ポイント、（14）「困っている人を助ける」が5．9ポイント、（5）「難しいことでも挑戦する」が5．4ポイント、（6）「自分にはよいところがある」が4．8ポイント、それぞれ昨年度の割合を上回っている。

「家の手伝いをしている」ことから、家族のコミュニケーションや家族への所属感、責任感などが高まっているものと思われる。「困っている人を助ける」が向上していることから、道徳的実践、思いやり、仲間意識などの高まりが感じられる。「難しいことへの挑戦」からは、課題に対する前向きな姿勢、向上心、挑戦意欲など、学習や自分に与えられた役割への強い気持ちが見えてくる。

これらの成果や高まりを生徒、保護者、地域へ明確に知らせ、さらに意欲を高めていく体制や学校、家庭、地域が連携して取り組める体制などを構築していくことが重要であると考える。